

まほろん

Shirakawa since 2001



通信

◆特集◆

これが弥生の天王山

■シリーズまほろんのヒミツ9■

あの“なぞ”の2体のマネキンの正体とは!? 之巻

■コラム■

『丸木舟づくりへの思い』—復元品製作のすすめ—

◆特集◆まほろんみどころ情報

常設展示「みんなの研究ひろば」について



これが弥生の天王山

指定文化財展「白河市天王山遺跡の時代」にちなみ、謎多き天王山式土器について考えてみましょう。

文：笠井 崇吉（専門学芸員）

右の写真は、白河市久田野の天王山遺跡から出土した弥生土器の壺です。昭和25（1950）年の発掘調査当時、未知の土器群であったことから、発掘調査で出土したその他の土器とともに天王山式と名付けられました。



白河市天王山遺跡出土
（白河市歴史民俗資料館所蔵）

突然ですが、ここで問題です。「下の図は、福島県で出土した弥生土器の壺を古いものから順に並べたものですが、天王山遺跡出土の壺は、ア～エのどの位置に入れたら良いでしょうか？」。この問題は、天王山式の設定当時、考古学者を悩ませた問題です。形から推理してみましょう。天王山遺跡出土の壺は、口の部分が受け口状で、頸の部分はやや太く、胴の部分は丸く張っています。口の部分は①②ともに受け口状ですが、突起はありません。頸から胴にかけては、②と③の間くらいでしょうか。いまいち絞り込めません。文様に注目してみましょう。天王山遺跡の壺は、へら状の工具で稲妻のような文様を描き、その中に縄文をつけています。①は、へら状の工具で四角い渦巻きを描きその中に植物茎を転がして文様をつけています。②は、先が3本に分かれた茎状の工具で渦巻きと三角形を描き、③は楯状の工具で縦の線と縮れたような横線を描いています。工具と文様のつけ方は①に近いような気がします。答えは、ウなのですが、じっくりこない方は、ぜひ指定文化財展へおこしてください！

弥生時代中期中葉

弥生時代中期後葉

弥生時代後期後葉

ア



イ



ウ



エ

①会津若松市一ノ堰B遺跡出土
（まほろん収蔵）

②檜葉町美シ森B遺跡出土
（まほろん収蔵）

③いわき市夕日長者遺跡出土
（いわき市教育委員会所蔵）

表紙の1冊

「まほろん森の塾」は、小学4年生から中学3年生までを対象に、毎回、さまざまな体験を通して、昔の暮らしや技術を学んでいます。9月2日（日）には、「粘板岩」という石を磨いて、弥生時代に稲穂を摘み取る道具として使われた「石庖丁」をつくりました。つくった「石庖丁」を使って、まほろんで栽培する「ほうきもろこし」の実を摘み取る作業も行うなど、楽しい1日となりました。

まほろんのヒミツ9

あの“なぞ”の 2体のマネキンの 正体とは!?

之巻

展示室にたまに出てくる、
マネキンのヒミツをあばく!

文：太田勇陽（学芸員）

みなさんは「軍団」と聞いて、何を連想しますか？ ひょっとしたら、テレビでおなじみの、あの世界的映画監督が率いる「軍団」をイメージした方もいるかもしれません。

まほろんのある白河にも、「軍団」がありました。もっとも、そこに属した人は、なにも芸能人だったわけではありません。今から1000年以上前の日本では、「軍団」という軍事組織が各地に置かれ、白河には白河軍団が置かれました。そこに属した兵士は、戦争に駆り出されたばかりではなく、都まで絹を運んだりなど、日本の歴史のあちこちに、その姿を現します。

奈良～平安時代の東北の中心地だった多賀城跡（宮城県多賀城市）からは、白河軍団の兵士の名前が列記された木簡もっかんが出土しています。そこに見える白河軍団の存在に注目してもらうために、2体は復元されました。モデルとなったのは、木簡に見える「神人味人みわひとあじひと」という人物で、武装した兵士は「武人くん」、旅人の兵士は「旅人くん」と親しまれています。

企画展の時などをのぞけば、展示できる機会が限られている「お二人」。でも、彼らの写真が図書に掲載されたり、博物館の展示品として貸してほしいといった問い合わせが、あとをたちません。普段は無口な「お二人」ですが、実は、日本の古代史を雄



「武人くん」



「旅人くん」

弁に語ってくれる「お二人」なのです。

ところで、2体のモデルとなった「神人味人」という人物、どうも親戚が今の近畿地方にもいたらしく、中には渡来人を先祖に持つ「神人しんせんしやうじやく」さんもいます（『新撰姓氏録』）。もしかしたら、白河軍団に属した兵士たちの中には、近畿地方から白河に移り住んできた渡来人の子孫もいたのかも……？

コラム

『丸木舟づくりへの思い』

— 復元品製作のすすめ —

文：門脇 秀典（専門学芸員）

学芸員の仕事は多岐にわたりますが、「ものづくり」の仕事が多いことに気づきます。なかでも出土遺物をもとに作る復元品の製作は、道具の機能を考える上でとても重要です。

まほろんでは、5月から石のオノを使って丸木舟づくり体験を行っています。大まかに削る作業は「タテオノ（縦斧）」で、側面や底面を細かく削る作業は「ヨコオノ（横斧）」で行っています。タテオノは年輪に沿って刃先をあてると、木が裂けていくので作業がはかどります。ヨコオノは思い通りの形に整えていく作業に向いています。

今回、丸木舟製作用にヨコオノを手作りしました。ヨコオノは刃先の形や柄と石斧の取り付け角度など、微妙な違いが木を削る際に大きな影響があることがわかってきました。使いづらさと感じると、いつも出土遺物を見直すようにしています。こうすることで、昔の職人さんと会話しているように思えます。

常設展示

「みんなの研究ひろば」について

県内の高校生による研究成果を紹介！

文：三浦 武司（専門学芸員）

まほろんの常設展示室には、「みんなの研究ひろば」というコーナーがあるのは、お気づきですか？

2～3か月に1回程度、展示替えを行って、みなさんに新しい情報を提供しています。個人・団体の研究などを紹介するコーナーです。これまでには、まほろんボランティアの活動や、まほろん森の塾での成果などを展示紹介してきました。

今年度の「みんなの研究ひろば」では、高校生の研究活動にスポットを当てて展示をしています。

第1回は、県立新地高等学校 おもひの木プロジェクト地理歴史班の「大津波伝承の研究」です。2011年の東日本大震災に伴う大津波で被災した新地町を中心として歴史的事実を正確に残し、未来につないでいく大切さをテーマとした研究です。2017年第11回全国高校生歴史フォーラムにおいて、この研究は優秀賞・学長賞に輝きました。7月21日から9月30日までの展示で、多くの見学者の方から好評を得ています。



新地高校「大津波伝承の研究」展示風景



福島高校生の鍛冶体験の様子

第2回は、県立福島高等学校の「^{てつ}鐵・刀・日本の文化の研究」です。SSH（スーパー・サイエンス・ハイスクール）指定校の研究の一環で行ったものです。古刀再現の技術を刀匠との体験を通して学び、文化財調査者とともに古代の製鉄技術を学んで鉄づくり実験を行うなどの研究を進めました。10月2日から12月2日までの展示となっています。

高校生による歴史・文化財研究の成果をぜひ見学していただければと考えています。

まほろん掲示板

9/29 (土) 指定文化財展 「白河市天王山遺跡の時代」(～11/25)

10/13 (土) 考古学専門研修
「弥生土器のみかた」
文化財講演会
「卑弥呼の時代のふくしま」

10/14 (日) 親子で石廂丁づくり



11/3 (土) 印章づくり

11/10 (土) 文化財講演会 「天王山遺跡のいま」/「『弥生時代』をどうみるか」

11/18 (日) まほろん感謝デー

12/8 (土) 六つ目編みのカゴづくり

12/15 (土) ふくしま復興展
「はま・なか・あいづ再生史」(～3/17)
第5回館長講演会

12/16 (日) 文化財講演会
「相馬地方の製塩遺跡」
「奥州慶長津波からの復興」

1/13 (日) 古代の塩づくり

★お気軽にお問い合わせください！

編集後記

今年の夏は全国各地で四〇度前後の猛暑日が続きました。標高三〇〇m以上の場所にある白河地方も、普段の夏は三〇度を超える日はそれほど多くありませんが、今年は連日三〇度を超える真夏日が続く、屋外での体験活動に影響があるほどでした。地球温暖化など気候変動を実感させられる夏でした。

